



食と農のこれからを考える

～福島と童仙房をむすんで～

話題提供 祖田修(京都大学名誉教授)

コメント 前平泰志(京都大学教育学研究科)



京都府南山城村
童仙房地区

日時 2012年3月10日(土) 13時～16時

バスで地域見学の後、小学校で祖田先生のお話し・交流会

場所 の どの どう せん ぼう
旧野殿童仙房小学校 (京都府相楽郡南山城村)

京都より無料送迎バスあり

行き／京阪丹波橋駅 10時発 (所要約90分)

帰り／野殿童仙房小学校 16時、18時発

集合・解散は丹波橋「呉竹文化センター」ロビー



「食」の安全性や自給率が問題になるなかで、これからの「農」をどうしていくのかが問われています。またそれは、これからの「地域」をどうつくっていくのか、一人ひとりが向き合っていくことでもあります。

この企画では、京都府唯一の村である南山城村の、童仙房(どうせんぼう)地区の旧校舎で、風景や食材を楽しみながら、のんびり交流したいと思います。農学者の祖田修さんのお話をうかがいながら、土地に根ざす「着土」をキーワードに、「いなかで暮らすこと」を見つめなおし、「食」と「農」のこれからを考えていきたいと思っています。

被災地から京都に来られた方、童仙房で暮らしている方、それぞれ困難を抱えながらも、農と食とに関わってきた人同士でつどい、お互いの経験や問題を共有しながら、共に一歩を踏みだしたいと思っています。どなたもお気軽にご参加ください。

そ だ お さ む ○祖田 修さんのご紹介

1939年、島根県生まれ。京都大学名誉教授、福井県立大学名誉教授。食と農業・農村について、「経済」「生活」「環境」などのさまざまな視点から研究を重ねる。現在、南山城村童仙房に「着土庵」をかまえ、自ら農作業をしながら、日本と世界の農業の展望の思索を続ける。著書：『食の危機と農の再生』(三和書籍、2010)、『着土の時代』(家の光協会、2003)、『農学原論』(岩波書店、2000)、他

*京都から送迎の方には、お昼ごはんのご用意あります。保育ルームもつくりますので、お子様連れでもおこしください。 ↓ 集合・解散場所



(JR 大河原駅～童仙房間の村道は工事のため全面通行止めです、ご注意ください)

お問い合わせ・連絡先 京都大学教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター
collabo@educ.kyoto-u.ac.jp 電話・FAX 075-753-3075 (担当・吉田)